

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

世界遺産のまちの武家屋敷宗岡家の活用による交流人口の拡大

2 地域再生計画の作成主体の名称

大田市

3 地域再生計画の区域

大田市の全域

4 地域再生計画の目標

本市は、島根県の中央に位置し、世界遺産「石見銀山遺跡」や国立公園「三瓶山」などの地域資源を活かした観光振興やまちづくりを進めている。

本市の誇る石見銀山遺跡は、平成19年に「石見銀山遺跡とその文化的景観」として世界遺産に登録された。遺跡内には、大森銀山と温泉津の町並み保存地区、友と沖泊の港湾集落、温泉津沖泊道と鞆ヶ浦道の街道沿線を含め、約1,000人の人々が現在も暮らしており、遺跡と自然、暮らしが調和する姿が石見銀山遺跡の価値にもなっている。

世界遺産エリア（石見銀山）への来訪者数は、近年減少傾向（平成20年813千人→平成27年375千人）にあり、また、世界遺産エリアのコア部分である大森町の人口も減少傾向（平成17年449人→平成27年391人）にあることから、世界遺産の価値を良好なかたちで将来に引き継ぐため、持続可能な地域づくりを展開していくことが課題である。

そこで本計画では、大森町内に位置する武家屋敷である市指定文化財宗岡家を、地元団体と連携し、石見銀山の歴史や文化、地域の暮らし等、豊富地域資源に触れることができる宿泊型体験施設として活用することで、交流人口の拡大を図ることを目的とする。

【数値目標】

事業	世界遺産のまちの武家屋敷宗岡家の活用による交流人口の拡大		年月
	宗岡家入館者数	石見銀山来訪者数	
申請時	-	375千人	H28.3
初年度	600人	468千人	H30.3
2年目	1,200人	478千人	H31.3
3年目	1,500人	481千人	H32.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

世界遺産石見銀山遺跡のコア部分である大森町はもとより、本市における交流人口の拡大を図るため、「世界遺産のまちの武家屋敷宗岡家の活用による交流人口の拡大」や「石見の国おおだ観光振興事業」を実施する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例
(内閣府)：【A2007】

(1) 事業名：世界遺産のまちの武家屋敷宗岡家の活用による交流人口の拡大

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

本市の誇る石見銀山遺跡は、平成19年に「石見銀山遺跡とその文化的景観」として世界遺産に登録された。遺跡内には、大森銀山と温泉津の町並み保存地区、友と沖泊の港湾集落、温泉津沖泊道と鞆ヶ浦道の街道沿線を含め、約1,000人の人々が現在も暮らしており、遺跡と自然、暮らしが調和する姿が石見銀山遺跡の価値にもなっている。

世界遺産エリア(石見銀山)への来訪者数は、近年減少傾向(平成20年813千人→平成27年375千人)にあり、また、世界遺産エリアのコア部分である大森町の人口も減少傾向(平成17年449人→平成27年391人)にあることから、世界遺産の価値を良好なかたちで将来に引き継ぐため、持続可能な地域づくりを展開していくことが課題である。

そこで本計画では、大森町内に位置する武家屋敷である市指定文化財宗岡家を、地元団体と連携し、石見銀山の歴史や文化、地域の暮らし等、豊富地域資源に触れることができる宿泊型体験施設として活用することで、交流人口の拡大を図ることを目的とする。

(事業の内容)

大田市の所有する武家屋敷宗岡家は、平成25年度から改修を行っており、平成29年9月に修理を終え、平成30年度から宿泊体験施設として活用することとしている。毎年、調査研究に訪れる多くの学生や石見銀山の歴史や文化に触れるために訪れる来訪者の宿泊を受け入れ、用意された体験プログラム(プログラム例：昔の暮らし体験、遺跡の保全、産業体験、伝統文化体験)により大森の人々や暮らし、豊富な地域資源に触れる体験施設とする。

体験活動や地元住民との交流を通して、石見銀山のファンを増やすとともに世界遺産エリアの観光誘客や定住推進に繋げる。

・各年度の事業の内容

初年度) 武家屋敷宗岡の改修が完了後、一般に公開し、同施設における体験宿泊事業を試験的に実施。展示パネル作成、民泊用の備品（冷蔵庫、洗濯機、エアコン、掃除機など）を整備する。非常勤職員を雇用し、施設管理を行う。

2年目) 管理手法の見直しを行い、管理者による施設公開と体験宿泊事業の推進

3年目) 石見銀山資料館や熊谷家住宅などの周辺施設と連携し、講座や体験学習などのプログラム連携を行い、体験宿泊事業を拡充

(4) 総合戦略における位置付け

大田市まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、基本目標1を「多様な産業を活性化し「はたらく場」をつくる」とし、当市の観光入込客数（H26：1,462千人→H31：1,608千人）をKPIの一つとしている。その中には、「観光施設の安全、快適利用のための改修、整備を行う。」「インバウンドを含めた誘客推進に向け広域連携等による宣伝活動の強化と、受入環境の整備を行う。」「石見銀山遺跡世界遺産登録10周年を契機にさらなる情報発信、誘客を推進する。」を、推進施策としており、本事業はこれに基づく取組である。

(5) 実施業況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	世界遺産のまちの武家屋敷宗岡家の活用による交流人口の拡大		年月
	KPI	宗岡家入館者数	
申請時	-	375千人	H28.3
初年度	600人	468千人	H30.3
2年目	1,200人	478千人	H31.3
3年目	1,500人	481千人	H32.3

(6) 事業費

単位：千円

	年度	H29	H30	H31	計
		事業費計	3,860	4,106	4,106
区分	賃金	792			792
	共済費	3			3
	需用費	250			250
	委託料	540	4,106	4,106	8,752
	備品購入費	2,275			2,275

(7) 申請時点の寄附の見込み

年度	H29	H30	H31	計
法人名	非鉄金属製造業	非鉄金属製造業	非鉄金属製造業	
見込額（千円）	3,800	4,000	4,000	11,800

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

事業の KPI である「宗岡家入館者数」「石見銀山来訪者数」について、実績値を公表する。また、当市の総合戦略推進会議（商工団体、住民団体、金融、教育の関係者等）により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

(評価の時期・内容)

翌年度（8月頃）に外部有識者（総合戦略推進会議）による効果検証を行い、翌年度以降の取組に反映させる。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに大田市公式HP上で公表する。

(9) 事業期間 平成29年4月～平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 石見の国おおだ観光振興事業

事業概要：更なる観光地域づくりを推進するため、観光誘客宣伝や観光客案内、神楽公演などを行うもの。

実施主体：大田市

事業期間：平成19年度～

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業の KPI である「宗岡家入館者数」「石見銀山来訪者数」について、実績値を公表する。また、当市の総合戦略推進会議（商工団体、住民団体、金融、教育の関係者等）により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

翌年度（8月頃）に外部有識者（総合戦略推進会議）による効果検証を行い、翌年度以降の取組に反映させる。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに大田市公式HP上で公表する。